BEYOND Tomorrow

逆境は優れたリーダーを創る

ビヨンドトゥモロー
活動ハイライト 2025年度（2025年 4月～2026年 3月）

April 2025 ～ March 2026 Activity Highlights

挑戦がつないだ、一年間。



公益財団法人教育支援グローバル基金

代表理事 挨拶



「未来を担う人材を育むために」

公益財団法人教育支援グローバル基金
代表理事　橋本 大二郎（元高知県知事）

ビヨンドトゥモローは、東日本大震災の被災地の若者を支援しようと設立された団体です。2025年度は活動をスタートさせてから15年目にあたる年でした。この間に私たちは、支援の地域を東北から全国へと広げたほか、自然災害の被災者だけでなく、虐待や貧困さらには一人親家庭等、厳しい課題を抱えた若者の支援にも活動の輪を広げてきました。

その中で、わたしたちが掲げてきた理念は、「逆境は優れたリーダーを創る」ですが、その精神を一年間のプログラムの内容にどう落とし込むのか、正直悩んだ時期もありました。

しかし、何年かこの活動を積み重ねるうちに、逆境を体験した若者には、他者を思いやる気持ちが備わっていることを感じましたので、その共感力を生かしたリーダーシップの育成をと考えました。

その結果、まずは自らを律する力を養うこと、次に仲間を巻き込む力を養うこと、そして第三に社会に影響を与え動かす力を持つことの三つのステップで、若者たちがリーダーシップを身につけてくれるための後押しをしてきました。

この間、新型コロナの感染拡大といったハードルもありましたが、オンラインの活用などの工夫でそのハードルを乗り越えた結果、逆にそれが、活動の幅を広げることにもつながりました。また、一時中断していたアメリカ研修も再開され、2026年は西海岸での研修に加えて、発展するアジアを肌で感じるために、インドネシアでの研修にも挑戦することにしています。

これもひとえに、多くの皆さまのご支援のたまものですが、2024年8月に公益法人化を果たして二年余り、今後はファンドレイジングにさらに力を入れることで、皆様から寄せていただいたご期待とご信頼にお応えしていきたいと考えています。

2025年度 事業概要

奨学金と人材育成で若者の未来を支える

ビヨンドトゥモローは、
経済的・社会的な困難を抱える
若者が、学業に安心して取り組み、
将来の可能性を広げていけるよう、
給付型奨学金と人材育成プログラムを
提供しています。

2025年度の奨学生
22名
（高校生・大学生）

2つの奨学プログラム

エンデバー・プログラム

社会的養護の下に暮らす高校生を対象に、
受験料（上限10万円）と人材育成プログラムを提供します。

受験料の支給
上限10万円

＋

人材育成プログラム
（リーダーシップ・プログラム）

リーダーシップの育成や社会課題の理解など、
将来を切り拓く力を育むプログラムを提供します。

ジャパン未来スカラーシップ・プログラム

大学・短大・専門学校へ進学する学生を対象に、
給付型奨学金と人材育成プログラムを提供します。

給付型奨学金の支給
年間50万円
返済不要

＋

人材育成プログラム
（リーダーシップ・プログラム）

リーダーシップやキャリア形成、社会課題の理解など、
将来の可能性を広げるプログラムを提供します。

人材育成事業

奨学金の給付以上に、一人ひとりに寄り添い、
成長の過程を応援することを大切にしています。
様々なプログラム（研修機会）を通じて、
仲間やロールモデルとなる大人との出会い、
社会課題について考える学びの機会、意見交換や
発表などでの挑戦の機会を提供しています。

仲間やロールモデルとの出会い → 社会課題について考える学び → 意見交換や発表などでの挑戦 → 将来やキャリアの選択肢が広がる

2025年度実績

対面研修
5回
全国各地・海外で実施

対象となる若者

- 親との死別・離別を経験
- 社会的養護の下に暮らす
- 生活保護受給世帯に暮らす

活動の成果

60名以上
参加した高校生・大学生

22名
年間奨学生数

40名以上
関与した社会人・プロフェッショナル

15社以上
訪問した企業・団体

活動ハイライト

■スプリング（オリエンテーション）・プログラム 2025年3月25日～27日



スプリング・プログラムでは、2024年度奨学生のクロージングと2025年度奨学生のオリエンテーションを合同で実施しました。「リーダーシップ」をテーマに、理想のリーダー像や自らの経験を社会でどう生かすかについて議論を重ね、最終日には一人ひとりが目指すリーダー像と今後の行動を発表しました。年度を越えた交流を通じて学びを継承し、新たな一年への意欲を高める機会となりました。

■サマー・リトリート 2025年8月20日～23日

サマー・リトリートでは、高校生・大学生奨学生が4日間の宿泊研修を通じて、多様な企業や社会で活躍するリーダーとの交流や、最先端を行くIT企業、エンターテインメント企業などへの訪問、グループワークに取り組みました。「なりたい自分を探す・深める」をテーマに、自らの将来像と社会への貢献について考えを深め、最終日には高校生は自身の行動目標を、大学生は社会課題の解決に向けた提言を発表し、学びを具体的な行動へとつなげました。



LINEヤフー株式会社


キンコーズ・ジャパン株式会社


株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ

夏季グローバルプログラム

■米国サマー・プログラム 2025 2025年9月6日～14日

2012年から継続して行われている米国サマー・プログラム。本プログラムでは、選抜された10名の奨学生がニューヨークとワシントンD.C.を訪問し、アメリカの社会や文化について学びました。

2025年度は「人と人を繋ぐリーダーとは？－今私たちにできること－」をテーマに掲げ、分断が進む現代社会において、参加者一人ひとりが人と人を繋ぐリーダーとしてどのように行動できるかを考えました。様々な企業・団体や教育機関への訪問、各分野で活躍する方々との交流や仲間との議論を通じて、研修後の具体的な行動につながる成長の機会を提供しました。最終日には、学びを英語で発表しました。本事業は、日米両国の架け橋として活躍された故村瀬二郎氏のご遺志を継ぎ、日米交流の担い手となる若者がアメリカの空気に触れ、多くのアメリカ人に出会い、米国社会について学ぶことを目的とした「村瀬二郎記念奨学事業」として運営しています。


ジョン・サリバン
元駐ロシア米国大使


ニューヨークの
マディソンスクウェアにて


多様な背景を持つ
現地高校生と交流


コモンパントリーでの
ボランティア体験


国際連合を訪問


国際連合事務次長（軍縮担当上級代表）中満泉氏と


最終日のレセプションパーティにて

■ジャパン未来リーダーズ・サミット 2025　2025 年 10 月 11 日～ 13 日

ジャパン未来リーダーズ・サミットでは、全国から集まった高校生・大学生 50 名以上が、「18 歳からの自立に必要なこと―『助けて』の声をあげる・届けるために―」をテーマに、3 日間にわたり議論を重ねました。参加者は自身の経験や多様な視点を持ち寄り、社会人メンターの助言を受けながら、自立を支える社会のあり方について提言を作成。最終日には政治・行政・企業・NPO など各分野の関係者に向けて発表しました。また、リーダーによる講演や参加者同士の対話を通じて、自らの経験を社会課題の解決につなげる視点と、他者と協働して未来を切り拓く力を育む機会となりました。



ソニー元 社長 兼 CEO、
一般社団法人プロジェクト希望
代表理事 平井一夫氏



50 名以上の高校生・大学生が全国から参加







グループでの最終日提言発表

審査員としてご参加いただいた
大阪大学大学院人間科学研究科 准教授 三谷はるよ先生からのメッセージ



サミットに参加して

「ジャパン未来リーダーズ・サミットに参加し、高校生・大学生の皆さんが互いを尊重し、信頼しながら対話を重ね、安心して語り合えるコミュニティを自らつくり上げている姿に深く感銘を受けました。人は、信頼できる他者とのつながりの中で力を得て成長していきます。このサミットでの出会いや経験は、皆さんがこれから自分らしく歩んでいくための大切な支えになると確信しています。今後の挑戦と活躍を心から期待しています。」

その他の活動

サマーグローバルプログラム

6 月～ 7 月、モルガン・スタンレー様ご支援による複数回のオンラインプログラムや、対面での「株の力」講座をご開催いただき、金融知識や英会話、ゴールセッティングなどあらゆるテーマで学びました。また、翌日には Japan Society 主催で来日した高校生との交流機会も持つことができました。



ホームカミングデイ 2025

6 月 15 日、ビヨンドトゥモローの卒業生を対象とした「ホームカミングデイ 2025」を開催しました。2011 年の創設以来、14 年間で卒業したビヨンドトゥモローの参加者から、今年も各世代の卒業生が全国から集い、交流を深めました。



企業協賛リーダーシップ・プログラム開催

12月13日、プラダジャパン株式会社様協賛によるリーダーシップ養成プログラムを開催し、参加者は変化を主導するリーダーシップや失敗から学ぶ姿勢について学ぶとともに、社員の皆様との交流を通じて多様なキャリア観への理解を深めました。



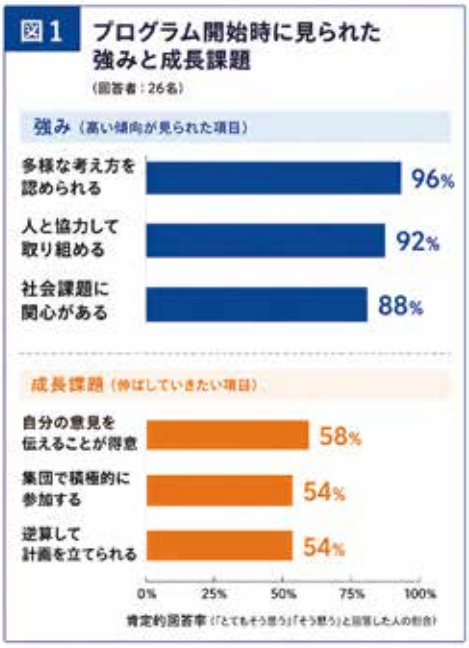
アンケート調査報告　年間を通じたリーダーシップの成長

奨学生たちは、それぞれ異なる困難や逆境を経験しながらも、「自らの可能性を広げたい」「社会に貢献できる人になりたい」という思いを胸に、本プログラムへ参加しています。ビヨンドトゥモローでは、人材育成の成果を把握し、より良いプログラムづくりにつなげるため、年間奨学生を対象にリーダーシップに関するアンケートを毎年実施しています。今年度は、プログラム開始時に学生の意識や強み・課題を把握するとともに、終了時にはプログラムを通じて実感した成長や変化について調査を行いました。

■アンケート概要

【対 象 者】ビヨンドトゥモロー年間奨学生
【実施時期】2025年4月（プログラム開始時）/ 2026年3月（プログラム終了時）
【回 答 数】4月＝26名、3月＝21名
【調査内容】自己理解、レジリエンス、他者との協働、主体性、社会課題への関心など、リーダーシップに関する意識や行動について調査

※プログラム終了時のアンケートは匿名で実施し、率直な意見を把握できるよう配慮しています。





■アンケート結果（抜粋）

年度当初の学生の特徴

プログラム開始時点では、「多様な価値観を受け入れる姿勢や協働性、社会課題への関心は高い一方、自分の意見を発信することや主体的に行動することには課題が見られました（図1）

プログラムを通じて実感した成長

プログラム終了時には、「社会課題への関心」「人生への満足度」「自分の意見を伝える力」「協働する力」など、多くの項目で95～100%の学生が成長を実感しました（図2）。

アンケートから見えた成長

プログラム開始時には、主体的に発信・行動することに十分な自信を持てていない学生もみられましたが、年間を通じた対話や実践的な活動を経て、多くの学生が発信力や協働する力の向上を実感することができました。また、自由記述では、プログラムでの学びを、ボランティアや地域活動、学校での新たな挑戦など、実際の行 動へとつなげる学生も見られました。

学生の感想から見えた成果

多様な価値観を受け止める力

「価値観の違いを否定ではなく、バックグラウンドの違いとして捉えられるようになった。」

「他の人の意見を否定せず、自分の考えに取り入れられるようになった。」

主体的に行動する力

「ビヨンドトゥモローに参加して、恐れずに自分の意見を伝えられるようになった。」

「1人ではなく、周りを巻き込みながら行動できるようになった。」

学びを社会で実践

「輪島高校との共同開催型復興イベントの企画・運営や、大学で社会課題解決型ビジネスを学ぶゼミに参加している。」

「学習支援ボランティアを始めようと思い、登録をした。」

2021年度年間奨学生

叶 響 さん Hibiki Kano

所属：JICA海外協力隊2025年度1次隊
ルワンダ派遣配属先：ルワンダメンズリソースセンター



高校2年生のとき、学校に掲示されていた「ジャパン未来リーダーズ・サミット」の募集ポスターを見つけたことが、私とビヨンドトゥモローとの出会いでした。幼い頃からひとり親家庭で育ち、その環境を当たり前のものとして受け止めてきましたが、「自分と同じような経験を持つ仲間と出会い、自分自身の経験と向き合ってみたい」と思い、参加を決意しました。応募用紙には、困難な経験を力に変え、自分らしい未来を切り拓いている先輩たちの姿が紹介されており、「その強さはどこから生まれるのだろう」と強く惹かれたことを覚えています。

ビヨンドトゥモローで特に印象に残っているのは、安心して自分の思いを語ることができる場があったことです。研修では、過去や現在、そして未来について、お互いの経験に耳を傾けながら率直に語り合いました。誰かの言葉を否定することなく受け止め合う雰囲気があったからこそ、自分自身も自然体でいられたと感じています。

この経験を通して、多様な背景を持つ人と向き合うときには、まず相手が安心して話せる環境をつくることの大切さを学びました。

大学では国際協力や市民社会について学び、卒業後はJICA海外協力隊としてルワンダで活動しています。現在は、ジェンダー平等の実現に取り組む現地NGOで、広報や情報発信、写真・動画撮影、参加者へのインタビューなどを担当しています。異なる言語や文化の中で活動する難しさもありますが、ビヨンドトゥモローで学んだ「心理的安全性を大切にする姿勢」は、地域の人々と信頼関係を築くうえで大きな支えになっています。また、学生時代にはビヨンドトゥモローでインターンとして活動し、参加者が安心して対話できる場づくりにも携わった経験が、現在の実践にも生きています。

ルワンダでの活動を通して、ジェンダー平等は文化や教育、社会の仕組みなど幅広い課題と深く結びついていることを実感しています。これからも、一人ひとりの尊厳が大切にされる社会の実現に向けて、ジェンダー平等や社会課題について、より多くの人に伝えていける存在を目指して歩み続けたいと思います。ルワンダでの経験を糧に、帰国後も国内外を問わず、多様な人々が互いを尊重し合える社会づくりに携わっていきたいと考えています。



インターンとして
後輩をリード

ビヨンドトゥモロー活動当時
▼コロナ禍でオンラインプログラムが主流に（画面左上）



2018年、19年度年間奨学生

［　　］さん

所属：［　　］法律事務所 弁護士



高校2年生のとき、学校で配られた「ジャパン未来リーダーズ・サミット」の案内が、ビヨンドトゥモローとの出会いでした。応募条件に当てはまっていたことから興味本位でチラシやホームページを見てみると、全国にはさまざまな困難を経験しながらも前を向いて歩んでいる同世代がいることを知り、大きな衝撃を受けました。同時に、「ここなら自分をさらけ出せるかもしれない」「自分のことを話してみたい」という思いが強く湧き上がり、参加を決意しました。

当時は、自分の家庭環境を周囲に話すことができず、一人で悩みを抱えていました。しかし、サミットの体験共有では、勇気を出して初めて自分の過去や思いを仲間に打ち明けました。整理しきれていない記憶や感情を言葉にする私の話を、班のメンバーは最後まで温かく受け止めてくれました。「こんな私が夢を追いかけていいのか」と口にしたとき、「諦めないでほしい」という仲間の言葉に背中を押され、自分の人生を初めて肯定できたような気がしました。

その後も、米国研修をはじめとするさまざまなプログラムに参加しました。初めて見る海外の景色や、多様な価値観に触れた経験は、自分の世界を大きく広げてくれました。一方で、提言の作成や毎日のハードなスケジュールは決して楽ではありませんでしたが、仲間とともに全力で挑戦した時間は、今でもかけがえのない財産です。

大学では、ビヨンドトゥモローで出会った仲間たちの姿に刺激を受け、「自分も誰かのために行動したい」という思いから、ひとり親家庭の子どもたちへの学習支援ボランティアに取り組みました。司法試験の勉強とアルバイトを両立する忙しい日々を送りながらも、「困難を抱える人に寄り添える仕事に就きたい」という高校時代に抱いた思いは変わることなく、弁護士への道を歩み続けました。

現在は、地域に根ざした法律事務所で弁護士として働いています。依頼者一人ひとりの話に耳を傾け、その人にとって最善の解決策を考える仕事の中で、ビヨンドトゥモローで培った傾聴力や共感力、多様な価値観を受け止める姿勢が大きく生かされています。

これからも、一人でも多くの人に寄り添う弁護士であり続けるとともに、子どもの権利を守る活動や、経済的・家庭的な困難によって夢を諦めなくてよい社会づくりにも力を注いでいきたいと考えています。「誰もが生まれ育った環境に左右されず、自分らしい人生を歩める社会」を目指し、自分自身の経験を力に変えながら、一歩ずつ歩み続けていきます。



ビヨンドトゥモロー活動当時

※個人情報保護のため、一部の情報を加工しています

新役員からのメッセージ

林 礼子 理事

国連ウィメン日本協会 理事長



震災直後にビヨンドトゥモローが発足して以来、これまで外部の関係者として、折に触れてその活動に関わってきました。その過程で知り合った学生の皆さんが、ご自身の様々なチャレンジに向き合う中で、ビヨンドトゥモローという安心できるコミュニティーを力に変えて、大きく成長していく姿に、私自身も学びや勇気を頂いてきました。
社会はこれまでにない速度で変化していこうとしています。逆境は優れたリーダーを創る、という言葉通り、ビヨンドトゥモローで学んだ皆さんだからこそ、この予見できない社会で頼りになる存在になるものと思います。
今後は、ビヨンドトゥモローの関係者の一人として、皆さんが一層羽ばたいて頂けるように尽力して参ります。

主なパートナー企業様

バンク・オブ・アメリカ
ジャパン未来リーダーズ・サミットへの助成、会場提供、社員ボランティア

キンコーズ・ジャパン株式会社
印刷物制作のご協賛

株式会社ジーエークレアス
印刷物制作のご協賛

株式会社 NHK グローバルメディアサービス
（法人会員）

公益財団法人　JKA
米国サマー・プログラムの助成

その他ご支援・ご連携いただいた企業・団体の皆さま

モルガン・スタンレー
リーダーシップ・プログラムの共同実施、ご寄付

プラダジャパン株式会社
リーダーシップ・プログラムの共同実施

Japan Society
リーダーシップ・プログラムの共同実施

ニューヨーク日系人会
(Diane Knox, Paul and Yoshiko Sheard, Eri Kakuta, 村瀬ファミリーの皆様)
リーダーシップ・プログラムの共同実施、ご寄付

フィデリティ投信株式会社
会場ご提供

ELSA Japan 合同会社
英会話アプリのご提供

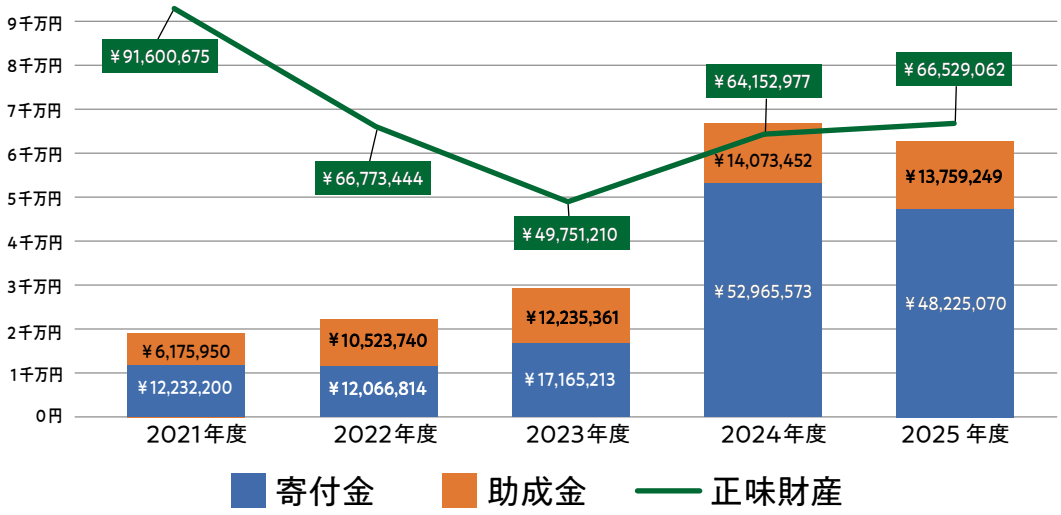
メイヤー・ブラウン法律事務所
リーダーシップ・プログラムの共同実施

米日財団
リーダーシップ・プログラムのご支援

2025年度会計報告　2025年4月1日から2026年3月31日まで

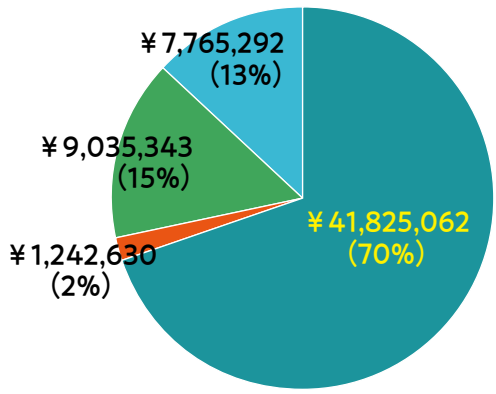
収益の内訳

寄付金・助成金と正味財産推移



支出の内訳

経常費用の使途



人材育成プログラム運営費
広報費
奨学金給付事業運営費
管理費

※「奨学金給付事業運営費」「人材育成プログラム運営費」には、プログラム実施費用および事業に従事する職員の人件費を含みます。

25年度活動について

25年度の収入は、ご寄付金および助成金を合わせて6198万円となりました（96%）。一方、支出は5987万円で、このうち大部分となる4183万円（70%）を人材育成のプログラム開催費として、奨学金給付事業に904万円（15%）と、あわせて支出全体の85%を困難な環境にある若者への活動として活用いたしました。25年度の収支は238万円の黒字となり、24年度に続き、2年連続の黒字決算となりました。これまでの貯金に相当する正味財産額も6653万円と着実に増加しています。

税制控除の適用

なお、2026年1月15日より、従来の所得控除に加え、より寄付者の皆さまにとって利便性の高い税額控除の適用が開始されました。これにより、当財団へのご寄付に対する税制上のメリットが拡充されています。マンスリーサポーターの皆さまによる継続的なご支援は着実に広がりを見せており、遺贈寄付についても昨年に引き続き複数のご相談・お申し出をいただいております。今後も公益財団法人としての信頼性と公益性を活かしながら、皆さまからお寄せいただくご支援を大切に活用し、一人でも多くの若者に支援を届けられるよう、希望を持って未来へ歩める社会の実現に向けて取り組んでまいります。

様々なご寄付の方法があります

ビヨンドトゥモローの活動の全てが、活動の趣旨にご賛同くださった
多くの企業・個人の皆様からのご寄付・ご支援によって支えられています。

オンライン決済、銀行振り込みなどによるご寄付

銀行振込、クレジットカード払い、Vポイント、楽天Payなどで、ご寄付をいただくことができます。詳しくは、当財団ウエブサイトまたはお電話でお問い合わせください。



遺贈によるご寄付

遺言状や遺言信託による遺贈寄付の他、相続によるご寄付、お香典のご寄付をいただくことで、ご自身の財産や大切な方のご遺志を、未来を担う次世代の若者支援にご活用いただけます。遺言書の作成や、財産のご寄付について相談できる、信託銀行及び弁護士などの専門家のご紹介を希望される方は、当財団までお問い合わせください。



商品やサービスによるご支援

物品やサービスの無償でのご提供や、オフィスなど施設・会場の提供、プロボノでのアドバイザリーのご協力など、様々な形でご支援をいただくことができます。

ご寄付に関するお問い合わせ

電　　話　03-5453-8030（受付時間 平日 10:00 ～ 17:00）
電子メール　info@beyond-tomorrow.org

公益財団法人 教育支援グローバル基金 及び ビヨンドトゥモローについて

公益財団法人教育支援グローバル基金は、共感力ある次世代のグローバル・シティズン（地球市民）の輩出をめざす「ビヨンドトゥモロー」の運営を行っている非営利の財団法人です。
「逆境は優れたリーダーを創る」を理念に、次世代を担う資質を持ちながらも、親との死別や離別を経験したり、児童養護施設に暮らすなどの困難を経験した若者を対象に、奨学金支給及び人材育成プログラムの開催を行い、広い視点、深い共感力をもって社会のことを考えることのできる人材輩出をめざしています。



【組織体制】

代表理事	橋本 大二郎	元高知県知事
理　事	小林　正忠	楽天グループ株式会社 常務執行役員 グループ チーフ・カルチャー・オフィサー
	上滝　賢二	元日本放送協会理事
	本庄　竜介	グリーンコア株式会社 代表取締役
	村瀬　悟	メイヤー・ブラウン法律事務所 弁護士
	平川　理恵	元広島県教育長、昭和女子大学 ダイバーシティ推進機構 客員教授、 学校法人金蘭会学園 理事・経営改革本部長、他
	林　礼子	国連ウィメン日本協会 理事長
評　議　員	塩崎　恭久	一般財団法人勁草日本イニシアティブ代表理事
	宮城　治男	NPO法人ETIC.　創業者
	小宮山 利恵子	スタディサプリ教育AI研究所所長・東京学芸大学大学院教授
アドバイザー	竹中　平蔵	慶應義塾大学 名誉教授、元国務大臣
監　事	江崎　滋恒	アンダーソン・毛利・友常 法律事務所 外国法共同事業 弁護士

是非「いいね！」ボタンを押したり、
投稿のシェアで応援をお願い致します！

プログラムの様子や最新情報を発信しています！

@beyondtomorroworg



@beyondtomorrowjapan



@tomorrow_beyond



note はじめました！

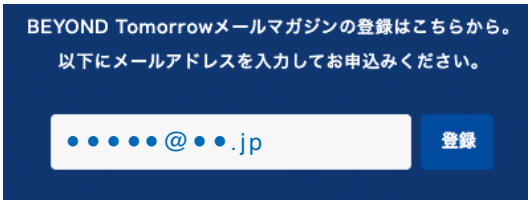
note.com/beyondtomorrow_



メールマガジンも
配信中！

BEYOND Tomorrow ウェブサイトの下部にある登録フォームに
メールアドレスを入力し、登録ボタンを押すことで
簡単にご登録いただけます。

beyond-tomorrow.org/



【設立年月日】2011年 6月 1日　【ウェブサイト】https://beyond-tomorrow.org/
【所在地】〒 150-0046 東京都渋谷区松濤 1-26-18 園ビルディング 1F
【 電 話 】03-5453-8030　【ＦＡＸ】03-6745-9100　【メール】info@beyond-tomorrow.org

kinko's On Demand Solutions　KONICA MINOLTA

この冊子は、キンコーズ・ジャパン株式会社様からの
ご協賛により印刷しています。